

文部科学省 科学技術学術政策局長 丸山剛司様

みなさまこんにちは。ただいまご紹介いただきました、文部科学省の科学技術学術政策局長をしております丸山でございます。今日は私、生まれて初めて女子大というところに来て、個人的に男女共同参画ができたな、と、思って、大変喜んでおる次第でございます。先ほど村井先生の方からご紹介有りましたとおり、この男女共同参画学協会連絡会のシンポジウム、3回を迎えられたということで、これまでの関係者の皆様の活動、ご苦労に対して深く感謝申し上げる次第でございます。ご案内のように、科学技術の分野における男女共同参画の推進と言う問題は、それぞれの分野ごとに色々な事情を抱えておまして、議論の集約が難しい点もありますけども、そういうことを乗り越えて、男女共同参画学協会連絡会の活動というものが、共通の問題意識というものを取りまとめて、いろいろな提言、あるいはシンポジウムを開催、更には女子高校生の夏の学校というような精力的な活動を行っておられることを高く、私ども評価しております。ご案内のように、現在国際的な知の大競争時代という中で、いよいよ本格的な人口減少を迎える日本にとりまして、科学技術を担う人材というものは非常に重要でございます。これが、科学技術創造立国の長期的な礎と言っても過言ではないと思います。そういう中で、わが国は女性の活躍という点で、諸外国に比べて非常に遅れをとっていて、この問題にはすぐに取り組まなければならないと言う風に認識をしております。研究者の単に数という問題ではなくて、わが国の研究開発を活性化するためにも、女性と男性が同じ職場で、共に能力を發揮できるような環境を作る。これが非常に重要ではないかと思っております。そういったことを考えます時に、男子に比べて理工系を志す女子生徒、年代が若い方にもそういう方が少ないということも大きな問題でございます。こういう問題意識の下で、先ほど村井先生からご紹介がありましたが、来年度に向けまして、3つの概算要求をしております。

一つは、科学技術の分野を目指す女子学生や生徒の進路選択の支援ということで、具体的には、女性研究者と学生や生徒との交流の機会を作って、ああいう人になりたいな、という志を持つ人が少しでも増えるような政策、これをやっていきたい。これが一点目でございます。

それから2番目はもっと大きな構造的な問題ですけれども、出産・育児と言う問題に直面したときに、どうしても研究を中断させざるを得ない、というようなことがありますけども、それを、復帰を容易にするような支援策を講ずる、ということで、これは今日本学術振興会の予算ということで、考えております。

それから、3点目はさきほどご紹介がありませんでしたけれども、私どもの文部科学省にあります、科学技術振興調整費というものを使いまして、女性研究者が活躍できるような体制整備に積極的に取り組む機関を応援するような政策を考えたい。これは、国立大学が法人化して、それぞれの大学が色々な形で特色を活かして努力しておりますが、そういう中で、女性をむしろ積極的に取り込むアイデアを競争していただく、というようなことで、良いアイデアに対して支援をしていく、ということを考えております。数字を申

し上げられないのは予算が大変厳しいので、取れなかった場合には、私ちょっと来年ここに2度と来れないと思っておりますが、それは冗談として、非常に重要でございますので、全力を挙げて予算の獲得に努めたいという風に考えております。

ちょっと話は変わりますが、今回のシンポジウムのテーマにありますように、アカデミックキャリアパスを目指すということではなくて、やはり産業界における技術者、研究者、科学者の仕事を目指すというキャリアパスの多様化ということを考えていくのが非常に男女共同参画の中でもまた重要な問題であるというように考えております。たまたま先般、野口宇宙飛行士がディスカバリーで宇宙に行って帰られて日本で会合がありましたけれども、あのディスカバリー号の船長は、アイリーン・コリンズさんという皆さんもご存知の女性の船長です。研究者ではありませんけれど、当然、船長と言う重責を女性が担っているというようなことが非常に象徴的だなあと思った次第でございます。

それから、さきほども申し上げましたように、やはりキャリアパスの多様化、これは男性、女性に限らず、多様化のための取り組み、それから社会のニーズに適応した人材の育成、こういった政策をきちんと進めていきたいという風に考えております。科学技術分野における男女共同参画という問題は、本当に皆様方のご努力で、非常に盛り上がりを見せているというように考えておまして、今、政府部内で検討中の来年の4月から始まり、第3期の科学技術基本計画においても、この男女共同参画を科学技術分野でどう考えるか、という問題は、非常に重要な柱になると考えております。特に、育児と研究の両立の支援などは重要でありますし、男女共同参画の基本計画の中でも、今、科学技術分野での重要性を取り上げられる方向で検討されておる、と伺っております。また、学会会議においても、提言もなされておりますので、文部科学省としては、内閣府の総合科学技術会議等ともよく連絡をしながら、政府全体として一丸となつてがんばって行きたいという風に考えております。

最後になりますけれども、この会を運営されました学協会の先生方、それから会場を提供していただいたお茶の水女子大学郷学長はじめ皆様に、改めて御礼を申し上げますと共に、関係の皆様のご発展を祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。今日は、どうもおめでとうございました。